

第17回 ISO/TC207総会 コミュニケ

2010年7月11日から17日まで、ISO/TC207（環境管理）の第17回総会が、メキシコのレオン市で開催された。45カ国、11機関から約275名の参加者が、ポリフォーラム・レオンコンベンションセンターで開催された各セッションに参加した。このコミュニケは、ISO/TC207レオン会議の活動及び結果の概要を記述したものである。

ISO/TC207は、第17回ISO/TC207総会を主催したメキシコ標準・認証協会に深く感謝する。

A. ISO/TC207総会報告

ISO/TC207オープニングセレモニー

第17回ISO/TC207総会は、公式には2010年7月12日に、メキシコの環境規制局の副大臣であるSandra Denisse Herrera Flore女史の挨拶によって開始された。Sandra Denisse Herrera Flore女史の挨拶は、総会の出席者に、気候変動、環境マネジメント及び持続可能な開発に対するISO/TC207の継続的な貢献への挑戦を呼び掛けた。

その他の要人として、グアナファト州長官のGerardo Mosqueda Martínez氏、グアナファト州観光開発局長官のSergio Enrique Rodríguez Herrera氏、グアナファト州生態学協会の長官のEnrique Kato Miranda氏、レオン市長のFrancisco Ricardo Sheffield Padilla氏、メキシコ規格協会理事のFrancisco Ramos Gómez氏が挨拶を行ったほか、メキシコ標準・認証協会の専務であるMercedes Irueste Alejandre女史は、メキシコのグアナファトで会議を開催するという歴史的な重要性を説明しつつ、参加者に挨拶を行った。

ISO/TC207議長のBob Page博士が、メキシコ政府、グアナファト州、レオン市及びメキシコ標準・認証協会に対して第17回総会を主催したことへの感謝の辞を述べた。

Page博士は、多角的な環境上の取り組みに関する新たな重要性及び相互依存性が一層高まりつつある世界において途上国が置かれている特別な状況を、気候変動などの国際的な環境課題に関するメキシコの際立ったリーダーシップを賞賛しつつ、強調して述べた。

ISO/TC207クロージング総会－第17回総会の決議

ISO/TC207は第17回レオン総会において、16の決議を承認した(www.tc207.org において入手可能)。決議には次の事項が含まれる。

- ISO/TC207/SC2議長の再任
- 議長諮問委員会（CAG）に設置されている中小企業タスクフォース及び事業計画タスクフォースの解散。これは新たに設置されたマーケットタスクフォース、ステークホルダータスクフォース、及びポートフォリオタスクフォースがその役割を担うことになることによるものである。
- ISO/TC207/WG7は、ISOガイド64（製品規格で環境課題を記述するためのガイド）の改

正作業及び関連する実施のための資料の作成が終了したことにより、解散される。

- ISO 14063（環境コミュニケーション）の定期見直しの結果に基づき、ISO 14063を「確認」とする。
- ISO/DEVCO、国家標準化機関及びその他の資金援助機関、特にスウェーデン国際開発協力機構（SIDA）に対して、途上国メンバーの総会参加のための支援に感謝し、さらに、途上国が総会に参加する機会を拡大を奨励する。
- 国連環境計画（UNEP）と国連気候変動枠組み条約（UNFCCC）に対して、総会への参画及び総会期間中の重要な貢献に感謝する。
- 砂漠化防止アドホックグループの報告を歓迎し、その報告の結論に基づき、関心のあるメンバー機関が新業務項目提案（NWIP）を提出することを考慮するよう奨励する。
- 次回の第18回ISO/TC207総会の主催に関してノルウェーの申し出を受け入れる。次回総会は2011年6月26日から7月2日にオスロにて開催される予定。

決議に関する更なる情報は、以下の、関係するSC及びWGの活動概要において参照することができる。

B. ISO/TC207タスクフォース/コンタクトグループ/アドホックグループの報告

ISO/TC 207 途上国コンタクトグループ (DCCG)

ISO/TC207 DCCGは総会期間中に2回の会議を開催し、25カ国からの参加者があった。

DCCGでは各国におけるISO 14000シリーズ規格の活動に関するプレゼンテーションが行われたほか、森林伐採、砂漠化防止/土壌破壊、カーボンフットプリント、東アフリカにおける環境対策、フェアトレードマネジメント、サステナビリティに関する事項のプレゼンテーションも行われた。DCCGは、規格作成作業への途上国からの参加を強化し、そのための能力形成の方法を模索するようにメンバーに対して要請した。DCCGは、ビジネス計画と現在のISO/TC207の戦略計画の取り組みとを整合させた。加えて、DCCGは、ISO/TC207のリーダーシップ及びISO/DEVOの支援を受け、カーボンフットプリント、温室効果ガスの定量化・検証・妥当性評価、ライフサイクルアセスメント、マネジメントシステム監査における能力向上のための機会を模索することに同意した。

ISO/TC207 社会的責任 (SR) タスクフォース

ISO/TC207 SRタスクフォースは、総会期間中に会議を1回開催した。会議には3カ国から8名が参加した。このタスクフォースは、ISO/TMB SR WGの活動報告と、ISO/FDIS 26000のレビューを行った。最終原案の起草計画に従って、ISO/FDIS 26000は2010年7月12日から9月12日まで、2か月投票のためにメンバー国に回付されている。

投票の結果、承認されれば、規格は2010年後半に発行されることが予定されている。ISO/TC207 SRタスクフォースは、ISO 26000のパフォーマンスをモニターするISO/TMB WG SR Post Publication Organization (POP)とのリエゾン関係を維持する。

砂漠化防止に関するISO/TC207特別委員会

砂漠化防止に関するISO/TC207 アドホックグループは7月13日及び14日に会議を開催した。

オーストラリアが代理議長を務め、7カ国から12名が参加した。

土壌破壊（乾燥地域、非乾燥地域の両方において）のリスクの減少を支援するためのガイドラインが土壌管理者に必要であるという認識のもと、このグループでは、NWIPを作成し、ISO/TC207に提出することを決議した。NWIPのタイトルは、「土壌破壊及び砂漠化防止への取り組みに関する優れた実践事例（グッドプラクティス）の指針」となる見込みである。この規格は、乾燥地域・半乾燥地域及び非乾燥地域における農業及び林業へ適用する最良実施方法の指針とすることが合意された。

これは、国連砂漠化対処条約と一貫性があり（整合し）、かつ、それを支援することを意図している。インドネシアから、NWIPが承認されたならば、2010年後半又は2011年初頭に会議を主催することが申し入れられた。

ISO/TC207 スペイン語翻訳タスクフォース（STTF）

ISO/TC207 STTFは、総会中に数回の会議を開催し、ISO/FDIS 14005、ISO/DIS 14006、ISO 14021、ISO 14031、ISO/DIS 14051及びISO/DIS 14066を含む規格類のスペイン語訳を完了させた。ISO/TC207 STTFは、ISO/TC207の全ての規格がスペイン語で利用可能であることを報告した。

C. ISO/TC207分科会及び作業グループの報告

ISO/TC207 SC1 環境マネジメントシステム

ISO/TC207/SC1は7月16日に第18回総会を開催した。総会には25のPメンバー、2のOメンバー、4のリエゾンが参加した。総会に先立ち、次の会議が開催された。

- 合同技術調整グループ（JTCG）の対応グループ会議を開催し、現在開発中の事項に関する検討を行い、JTCGに参加するSC1エキスパートへのガイダンスを提供した。
- MRV MSSに関するアドホックグループは、コペンハーゲンのUNFCCCのCOP15会議までに行った作業を報告した。
- 将来のEMSに関するスタディグループは、EMSに関して新たに又は今後取り扱うべき事項の影響を考察し、SC1総会で推奨事項を報告した。
- ISO/DIS 14006及びISO/FDIS 14005は投票段階であるため、WG会議は開催されなかった。

次のグループが設置された

1. ISO 14001改正のアドホックグループ：このグループはSC1副議長のリーダーのもと、途上国から3名、先進国から3名のエキスパート及びリエゾン1機関から構成される。このグループは、将来のEMSに関するスタディグループのテーマ及び推奨事項を検討し、ISO 14001改正の範囲を決め、MSS（マネジメントシステム規格）に対するISOガイド72に基

づく妥当性評価を行い、新しいISO/TMB JTCGのHLS(上位構造)、共通テキスト及び用語を使用した規格仕様書及びNWIP文書の作成を行う。アドホックグループは、通信手段で作業を行い、次回2011年のSC1総会においてレビューを受けるためにその作業をSC1に提出する。

2. ISO 14004改正アドホックグループ：途上国から3名、先進国から3名のエキスパート及びリエゾン1機関から構成される。このグループは、将来のEMSに関するスタディグループのテーマ及び推奨事項を検討し、ISO 14004の改正の範囲を設定し、NWIP文書の作成を行う。アドホックグループは、通信手段で作業を行い、次回2011年のSC1総会においてレビューを受けるためにその作業をSC1に提出する。

3. JTCG SC1タスクフォースメンバー：アメリカ、日本、アルゼンチン、スペインからメンバーが参加している。

2010年10月のJTCG会議で合意されるJTCGの共通テキスト及び定義を採用し、既存のISO 14001を、JTCGの上位構造、共通テキスト及び定義と統合する提案（必要ならば、オプション付き）を行う。このグループは2011年4月にISO/TC207/SC1に対して報告を行う。

ISO/TC207/SC2 環境監査及び関連調査

ISO/TC207/SC2は、総会期間中の7月13日に第16回SC2総会を開催した。SC2ではISO 19011の改正状況に関する報告が行われた。ISO 19011「マネジメントシステム監査の指針」は、現在、DIS（国際規格案）が投票のために回付されており、投票締め切りは11月17日となっている。SC2は、ISO/DIS 19011の附属書のA.3にある、環境マネジメントシステム監査員が保有する分野特有の知識と技能に対してコメント及び承認を行うための内部投票を開始している。この投票結果は少人数で構成されるタスクフォースの協力のもと、SC2のリーダーがレビューし、まとめたうえで、ISO 19011の改正に関して管理責任をもつISO/TC176/SC3に提出する。

SC2では、ISO/IEC 17021-2（適合性評価）の現状に関しても報告が行われた。

ISO/IEC 17021-2はマネジメントシステムの監査及び認証を提供する機関への要求事項であり、間もなくFDIS投票のために回付される予定である。ISO/IEC 17021-2は、第三者認証監査員の力量に対する一般要求事項を規定している。環境マネジメントシステムの認証の信頼性及び信用性という観点から、SC2は、第三者認証監査員のなかで、環境に特化した力量の要求事項を作成することの市場ニーズを調査することが重要であると考えている。

同様の動きが、ISO/TC176/SC3においても、品質に特化した力量の要求事項に関して行われる予定である。SC2は、環境に特化した第三者認証の要求事項に関するNWIP作成のためのアドホックグループを設置することを決定した。この規格はISO/IEC 17021-2の枠組みの範囲内で作成されるものであり、監査員の力量要求事項に重点を置き、ISO/TC176/SC3における類似の活動を考慮し、かつそれらと整合し、また、ISO 22003、ISO 27006及びISO 28003のような既存の分野特有の規格を考慮する。アドホックグループは、12月1日までにNWIP案を事務局に提出するよう求められた。NWIPはISO/CASCOにも並行して回付され、承認されれば、CASCOとの共同作業グループ（JWG）を設置し、規格開発を行う予定である。

SC2は、SC2のスコープに関連した潜在的な新しい作業項目に関して実施された調査の結果をレビューした。この調査の回答率はやや低く、結果として早急な市場ニーズはないことが示された。SC2は、John Stans氏をプロジェクトリーダーに指名することを決定した。このプロジェクトは、公に入手可能な環境報告書及びサステナビリティ報告書の監査／検証の現在の開発に関して更なる調査を行い、SC2のスコープ内でこの分野における規格の市場ニーズに関する情報を提供する作業を担う。

ISO/TC207/SC3 環境ラベル

SC3は総会期間中の7月13日及び14日に会議を開催した。SC3はISO 14021（製品ラベル、関連する宣伝、販促材料に対する製造者、供給者による主張を含む自己適合宣言に関する規格）を改正し、すでに市場で使用されている用語に関するガイダンスを提供する必要があることを決定した。

次に示す定義を箇条3に追加したISO 14021:1999の追補を作成することが提案されている。

- バイオマス
- 温室効果ガス（GHG s）
- ライフサイクルGHG排出
- オフセット
- 持続可能な開発
- トレーサビリティ

SC3は、次の事項を含む5.10で記述するシンボルマークの修正を提案している。

- 廃棄及びリサイクル
 - ポイ捨て禁止を示すシンボルマーク
 - リサイクルのための分別を示すシンボルマーク
- よく用いられる材料を示すシンボルマークを記述する附属書の追加

SC3は用語の使用法、限定条件及び評価方法を含むISO 14021の箇条7の修正を提案している。

- 再生可能
- 再生可能エネルギー
- 持続可能性
- 温室効果ガス排出に関する主張
- 製品の“カーボンフットプリント”
- カーボンニュートラル

タスクグループの会議も開催され、追補のDISに対するコメントを検討した。二日間の会議の最後にタスクグループが報告した提案は、SC3によって承認され、ISO中央事務局にFDIS投票のためのドラフトを提出し、回付することを合意した。

事務局は、ISO 14020シリーズの将来の活動に関する選択肢を記述した資料について、各国のSC3メンバーからのフィードバックは結論に達せず、どの選択肢も選択されなかったことを報

告した。議長は、Franz Fiala氏をリーダーとするタスクグループ（ANEC/オーストリア、UK、アメリカ、豪州、ドイツ、フランス、GEN/台湾、及びスウェーデンで構成）で、ISO 14020の改正を行う場合について、その進め方に関する計画を作成するように指示した。

SC3は次の事項に合意した。

ISO 14020シリーズの見直しを進めるために、SC3は特別タスクグループに対し、改正の必要性、ギャップ及び、必要であればISO 14020の改正に関する開発方法と管理方法を明確化するという作業を課した。

タスクグループは次の事項を行う。

1. 2010年10月15日までに質問票を作成し、ISO/TC207/SC3メンバーとリエゾンに送付する。質問表はISO 14020の改正への積極的な参加を行うか、また、コンビナー及び事務局として支援する用意があるかに関するものであり、2011年1月15日までに回答するものである。
2. 質問に対する回答の評価を行い、ISO 14020の改正に関するNWIPを回付するか否かについて、2011年2月末までにSC3に対して提案する。
3. 2010年10月15日までにISO 14020の考えられる変更点の概要文書を作成する。

Ning Yu博士は前回のSC3会議以降のGlobal Ecolabel Networkの活動内容の報告を行った。

スウェーデンのCarl-Otto Nevén氏が、Global Environmental Declarations Networkの活動報告を行った。

ISO/TC207/SC4 環境パフォーマンス評価

SC4は総会期間中、7月13日及び15日に会議を開催し、ISO 14031改正作業を継続した。

SC4/WG4は総会期間中に会議を開催し、ISO/TS 14033（定量的環境情報）の開発作業を継続した。業種別のパフォーマンス指標の方法論を開発するSC4タスクグループは、総会期間中は会議を開催しなかったが、7月15日に出席しているSC4メンバーに対して“考えかた”を報告した。SC4は、このタスクグループが、組織の比較分析のための定量的なパフォーマンス指標を用いることの機会と困難さを強調するために、ISO 14031及びISO 14033の両規格に取り込むことのできるような適切な文章を準備すべきである旨を決定した。また、SC4メンバーは、関連するTC207/SCs/WGs、特にSC3とSC5に、協力とフィードバックを求めることを決議した。

ISO 14031の改正はタスクグループからの前述の文章を取り込む以外の実質的な作業は完了した。タスクグループからの文章は2010年8月末までに準備することが期待され、2010年10月までのCD投票時までに取り込まれる予定である。SC4は2011年1月までにDIS投票を行うことを目標にしている。同様に、ISO 14033のDIS投票も2011年2月又は3月までには遅くとも開始することを目標としている。これらの規格の発行は、2011年末になると見込まれている。

次回のSC会議は、第18回ISO/TC207総会に合わせて開催される予定である。

ISO/TC207/SC5 ライフサイクルアセスメント

SC5は7月15日にSC5総会を開催した。総会に先立ち、WG7会議が開催され、ISO 14045のCD1に対するコメントのレビューを行ったほか、WG8も開催し、ISO 14046のWD1に対するコメントのレビューをおこなった。

SC5は、WG7の報告に示されていたスケジュールに従い、ISO 14045をDIS段階に移行することを承認し、また、WG8のコンビナー報告を受理した。

SC5は、アメリカのSergio Galeano氏をリーダーとしたタスクフォースに感謝した。このタスクフォースはISO/TR 14047及びISO/TR 14049の改正版に関する検討を行い、これら二つの改正版のTRを事務局の編集上の確認を受けた後、発行のためにISO中央事務局に提出することに満場一致で合意した。

SC5は、2009年に実施した定期見直しの結果に従い、ISO 14040及びISO 14044を確認することを承認し、2011年の次回SC5総会期間中にISO 14040及びISO 14044の改正の範囲を模索することに合意した。最後に、SC5は二つのタスクフォースを設置することを決議した。このタスクフォースは、LCAのコア規格をどのように組織に適用するかの説明、クリティカルレビューの実施及びそれに要求される力量に関する、二つの技術的文書の開発に関するコンセンサスが見出せる領域を模索するものである。

SC5は次回SC5総会をTC207の第18回総会に合わせて開催する予定である。その際には、ワークショップを開催することを希望する。

ISO/TC207/SC7 温室効果ガス及び関連活動

SC7は7月11日及び7月16日に総会を開催した。今回から新たに中国のLiu Mei女史を共同セクレタリとして迎え入れた。SC7/WG1は温室効果ガスの妥当性確認チーム及び検証チームの力量に関する要求事項を規定するISO 14066を開発しており、DISに対する全てのコメントをレビューし、投票のためにFDISを回付することとなった。製品のカーボンフットプリントに関するISO 14067（第1部は算定、第2部はコミュニケーション）を担当するSC7/WG2は会議を開催し、CD1に対するコメントを処理し、3か月投票のためのCD2を準備した。SC7/WG3はISO/TR 14069（組織の温室効果ガス排出量の定量化と報告-ISO 14064-1の適用のための手引）のWD1に対するコメントを処理し、WD2を回付する予定となった。SC7の議長は、インドネシアのNoer Wardoyo氏をリーダーとするアドホックグループを設置し、温室効果ガスの監視/測定の方法論に関する課題を調査することとなった。SC7は次回第18回TC207総会で会議を開催する。

ISO/TC207 用語調整グループ (TCG)

TCGは7月11日から16日に会議を開催した。TCGの唯一の正式プロジェクトであるISO 14050は2009年2月に発行され、現時点まで改正されていない。TCGはTC207の活動中の各グループ及びプロジェクトとともに、各々の文書の用語の改善及び調整を目的とした作業を行った。本年、TCGはカーボンフットプリントの用語に関して、特に集中して作業を行った。ISO/TC207のメンバーは適切な参加と共同作業を確実にするためにTCGへの代表者を指名するよう奨励された。多国語のTC207用語バンクは継続的に更新、維持されており、ISOTCサーバーのTCG

フォルダーで利用可能な状態になっていることがメンバー機関に想起させられた。

ISO 14050の第3版の発行に続き、TCGは、ISOコンセプトデータベースを使用しながら、ISOの“規格データベース”の発行フォーマットへ移行するための開発作業を開始した。

ISO/TC207/WG8 マテリアルフローコスト会計

ISO 14051のDISが投票及びコメントを求めるために回付されている（投票終了は2010年10月27日）ことから、今回、会議は開催されなかった。その代わりに、ワークショップを2回開催し、ISO 14051の開発状況とDISの解説、各国（メキシコ、マレーシア、ドイツ及び日本）におけるMFCAの実施事例の紹介を行った。約60名が参加し、活発な議論が行われた。次回のWG8会議は2011年1月にドイツのベルリンで開催される予定である（スケジュールは変更される可能性がある）。